

令和5年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

山形県立米沢工業高等学校【定時制の課程】

スクールミッション	校訓「御互に敬愛の實を挙げよう」「自己の本分は自ら進んで盡そう」のもと、置賜地区唯一の定時制工業学科(令和5年度入学者から総合学科に改編)の高等学校として、基礎学力の充実と実践的・協働的な学習活動に取り組むことで、一人ひとりの考えを広げ、個性を伸ばし、持続可能な地域や社会の創り手となり、その発展に貢献する人材を育成します。	自己評価
		A:達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

重点目標	評価項目	今年度の達成状況(%:肯定的評価)	自己評価	今後の課題	評価委員からの意見
1 育成を目指す資質・能力に関する方針 ① 自分のよさを認識し、他者を思いやる行動をとることができる力を育成します。 ② 実践的・協働的な学びを通して個性を伸ばし、社会で自立できる力を育成します。 ③ 地域への理解を深め、自ら考え、判断することができる力を育成します。	自他共に尊重し、自らの役割や表現力、関係調整力を育む	グループ学習や合同授業、文化祭、県生徒の集いの実施により地域や年代を越えた様々な交流が活発に行われた。(「学校行事や年次行事は楽しく参加できた」生徒91.3%, 保護者等94.6%)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科を越えた合同授業など継続して実施していく</li> <li>学習アプリケーションの検討</li> <li>ボランティア等を通した地域との結びつき</li> <li>長期休暇等での生活指導</li> <li>交通や食事など基本的な事柄のマナー向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育の目標がしっかりと設定され、それを実現するための重点目標3項目を設定し、年度ごとに前年度の課題をふまえた各項目に対する取組みを設定されておりPDCAが意識されている。さらに目標を可能な限り数値が達成した具体的状態にされると結果判定が客観的に行え、かつ達成できなかった場合は原因がわかりやすく整理されると、さらにPDCAが回るように思う。</li> <li>良いところ、得意なものを見つけて伸ばしていけば授業が楽しい、学校が楽しいに結び付く。個別面談はとても良いことだと思う。個々の生徒の性格、思いを知ることが大事。</li> <li>学校開放日に授業を見たが、1年生は活発に意見を発表したり、楽しそうに授業を受けていたのが印象的。楽しそうな授業風景はとてもよいPRになっていると思う。</li> <li>地域ボランティアに参加し、感謝や称賛を受けることで自己肯定感が高まり自信を持てるようになる。</li> </ul>
	就労や社会奉仕活動を通し、社会性、協調性、実践力を育む	約半数の生徒の就労が就労を通し社会性、協調性など学んだ。(「働きながら学ぶことへの配慮や支援がある」生徒100%, 保護者等100%)また、上杉まつりを含め3度のボランティア参加はこれまでになく、地域と積極的に関わる活動が行われた。	A		
	基本的な生活習慣を確立させ、社会で自立する力	5回の個別面談等の実施と3回のわかば会議(生徒の情報共有のための会議)により、生徒の様子をきめ細かく把握し、アドバイスや相談を受けることができた。これらの活動が高い出席率を維持につながった(3月11日時点で91.0%)。また、年度当初よりも就労率が上がったこともこれらの細やかなアドバイスによるものと思われる(R5.6月29.8% → R6.2月54.8%)。	A		
	ものづくり活動や資格取得の推進	山形県定時制通信制生徒「生活体験発表会」では最優秀賞を受賞し、全国大会出場を果たした。全国大会では奨励賞を受賞した。また、同「作品展」では3名が入賞した。課題研究を地域課題の解決に向けた学習につなげることはできなかった。	A		
2 教育課程の編成及び実施に関する方針 ① 一人ひとりの夢の実現に向けて、個々に応じた支援や教育相談体制の充実を図ります。 ② ICTを活用した教育活動を積極的に取り入れ、基礎・基本を定着させるとともに、多様な選択科目を設定します。 ③ 地域をフィールドとした学びを通して、身近な地域や社会の課題解決に主体的に取り組めます。	個に応じた支援体制を構築し、「わかる授業」を実践	ICTを活用した調べ学習やスモールステップでの授業展開など、各担当で机間指導を充実させ、個々の生徒の様子を見ながら授業を実施することができた。(「授業で質問しやすい」生徒93.5%, 保護者等91.9%)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用など継続して実施</li> <li>地域団体や企業との連携体制の検討</li> <li>学校外での活動への参加体制や情報提供について検討</li> <li>引き続き郷土料理等給食の献立に入れ、地域の食文化に監視を持たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に内在する能力の引き出しに様々な対応等を実施されていることは評価されるべきと。</li> <li>地元企業(団体)とさらなる連携強化を行って枠を拡大すべき。</li> <li>基本的には育成であることは重要ですが、同時に教育がさらに必要。</li> <li>バザール型教育をさらに強化すべく外国人の受け入れも考えた方が良い。</li> <li>自立する子どもの姿を思い描きながら教育が展開されている。出席率90%超という実績は先生方一人一人の細やかな配慮や人との結びつきを育てる学校のスタンスが功を奏しているのだろう。</li> </ul>
	研究授業を行い、ICTの効果的活用を研究・実践	全職員がICTを活用した研究授業を実践した。その後の授業でも、GoogleMeetを活用した発表や授業評価、レポート提出など、積極的に活用している場面が見られた(「授業は工夫されていてわかりやすい」生徒97.8%, 保護者等97.3%)。	A		
	地域社会に目を向け、課題解決に向けて取り組む姿勢の育成	ボランティア参加や課題研究で地域に元気を与えることを目標にした取り組みが見られるようになった。	B		
3 入学者の受入れに関する方針 ① 学校生活を大切に、何事にも前向きに取り組む生徒を募集します。 ② 基礎・基本を大切に、他者との関わり合いを通して、学びの質を高めようとする努力 ③ 自己実現への意欲があり、将来の目標に向かって努力できる生徒を募集します。	全校体制で生徒の成長・発達を支援	全員面談では広く生徒の話を聞き、学習面談では進路や学習への不安などを聞くことができた。これらの面談を年間5回全職員で実施することができた(「安心して過ごすことができる」生徒95.7%, 保護者等97.3%、)、「悩みや相談に親身になってくれる」生徒97.8%, 保護者等97.3%、「保護者等とのコミュニケーションを大切にしている」保護者等91.7%)。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で生徒理解、情報共有しながら個々の成長を支援</li> <li>関係機関、家庭との連携</li> <li>文化祭時の教護会企画の検討と協力要請</li> <li>交流を通した活動による対人関係づくり</li> <li>積極的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つ1つの「できた」という思いを重ねる実践が感じられる。メダカの取組を新聞で見たが、ボランティア等社会参画的活動を推進しながら自己肯定感を高めているのだろうと思った。</li> <li>夜から昼へ大きく体制を変えることに不安。中学生を対象とした説明をぜひお願いしたい。「何かできそう」と感じられるPRがあれば。</li> <li>定時制があることで救われる子どもがいる。1人1人の抱える困難さや苦しみをやわらげ社会を支える人材として自信をもって卒業できるよう。</li> <li>合同授業への取組については大きな方向性として期待。</li> </ul>
	学校開放日や教護会と連携した広報活動による地域への発信	学校開放日参加者の増加などある程度の広報はできたが、まだ不十分に感じる。令和8年度に昼間定時制に変わることも含め、定時制を理解いただくための積極的な活動が必要(「学校での出来事を保護者等によく話す」生徒69.6%, 保護者等86.5%、「米工からのお便りは必ず保護者等に渡す」生徒73.9%, 保護者等86.5%、「米工のホームページは充実している」生徒69.6%, 保護者等63.9%)。	B		
	特別支援教育やSC、SSW等、個に応じたきめ細やかな対応	わかば会議でSC、SSWに参加いただくことができ、アドバイスをいただくことができた。	A		
4 その他	昼間定時制移行に向けた課題・検討事項の整理	教育課程検討委員会を3回、教務研修会を2回開き、課題や検討事項を全職員で共有することができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会等の実施</li> <li>安易な「昨年通り」ではなく、情報をしっかりと集め、検討・活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動を通し、社会との関わりを持つことでコミュニケーション力、総合的学習力の向上につなげたことが結果として出席率の向上にも繋がった。</li> <li>地域社会の課題解決に向けた取り組みに参画する機会を通し、生徒に目標を与えたことは大きな成果。</li> <li>小、中学校との連携についてもご検討いただければ。</li> <li>全員面談、わかば会議を実施し、全職員で情報を共有。きめ細かな個別指導を実施。また、企業とも情報を共有し学生指導に役立てており、今後も継続を。</li> <li>Chromebookを活用したICTを効果的に行われていると思う。</li> </ul>
	ハローワークなど外部機関と連携した進路指導	進路や保健、栄養など外部講師を招き講演を行った。生徒の感想のほとんどが肯定的なものであった。また、就労先の職場やこれまで支えていただいた企業の訪問を実施し、情報共有を図った。	A		
	生徒面談による心身の状況把握と生徒理解	年3回の生徒面談で生徒の状況を把握し、わかば会議や職員朝会等で情報共有を図った。わかば会議が実効性のあるものとなるように、進め方を工夫した。	B		

評価のための取組	実施時期・期間	評価の高かった主な項目(肯定的評価が95%以上となった項目)
生徒アンケート	令和5.12.7 ~ 令和5.12.15	○授業がわかりやすい ○安心して過ごすことができる ○先生方は悩みや相談に親身に対応 ○学校や社会のルールをきちんと守っている ○目標をもって学校生活を送っている ○先生方の指導が適切 ○進路についての情報提供や指導が適切 ○就労への配慮や支援 ○校内施設の清潔や安全 ○体調不良や健康相談への対応 ○健康・安全に関する指導 ○米工定に入学してよかった
保護者等アンケート	令和5.12.7 ~ 令和5.12.15	○授業が分かりやすいと子どもから聞く ○米工定は子どもが安心して過ごせる雰囲気がある ○子どもの悩みや相談に親身になってくれる ○先生方による学校や社会のルール・マナー順守のための適切な指導 ○就労への配慮や支援 ○校内施設の清潔や安全 ○健康相談への対応 ○健康・安全に関する指導 ○学校からのお便りなどで学校の様子がよくわかる ○保護者等への誠意ある対応 ○米工定を信頼している ○地域から信頼されていると感じる ○子どもを米工定に入学させてよかった

総括	多様なニーズを持つ生徒たちを適切に支援するため、全職員が互いに連携を取り合いながら教育活動にあたっている。その結果、小中学校で不登校を経験した生徒の多くが休まず登校し、充実した学校生活を送っている。今後はこのような取り組みや令和8年度から昼間定時制になることについて、地域や中学校(中学生・保護者等)に理解していただくような活動を行いたい。また、今後も生徒一人ひとりを大切に丁寧な指導を実践し、「夢の持てる米工定時制」として、基礎学力の定着と「ものづくり」に代表される協働的な学びを推進していきたい。
----	--